

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日	山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日	千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111				
分野	認定課程名	認定学科名		専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	芸術専門課程	スポーツ健康学科三年制サッカーコース		平成26(2014)年度	-	平成27(2015)年度			
学科の目的	横浜F・マリノスのコーチ陣の指導でプロ選手を目指す「マリノス強化専攻」と、選手及びコーチとしての能力向上を目指す「プレイヤー・コーチング専攻」を設置し、両専攻ともに将来よりレベルの高いサッカー界で活躍できる人材を育成します。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	サッカーC・D級コーチ、サッカー審判員3・4級、幼児体育指導員、MOS検定、ビジネス能力検定ジョブパス3級 中退率: 11.3%								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,470 単位時間	450 単位時間	330 単位時間	1,800 単位時間	0 単位時間	2,430 単位時間
	夜間			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率		
120 人の内数	57 人		1 人		2 %		11 %		
就職等の状況	■卒業生数(C)		25 人						
	■就職希望者数(D)		25 人						
	■就職者数(E)		24 人						
	■地元就職者数(F)		17 人						
	■就職率(E/D)		96 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		71 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) (有)セントフォット、栃木シティSC、ザスパ草津チャレンジャーズ、SS伊豆、横浜マリノス(株)、SC相模原、東京都サッカー協会、NOSSA八王子、VONDS市原SC、鹿島アントラーズ、東急スレイエスFC、一般社団法人Fマリノススポーツクラブ、FC東京、ファジアーノ岡山									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/sports/health/soccer/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数							960 単位時間	
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数							960 単位時間	
	うち企業等と連携した演習の授業時数							0 単位時間	
	うち必修授業時数							960 単位時間	
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数							960 単位時間	
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数							0 単位時間	
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)							0 単位時間	
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数							単位	
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数							単位	
	うち企業等と連携した演習の授業時数							単位	
うち必修授業時数							単位		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数							単位		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数							単位		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)							単位		
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				2 人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人		
	計						6 人		
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						5 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

サッカー業界に関連する企業等と連携体制を確保して、適宜サッカーに関する技能の向上や、業界での実務に関し必要とされるスキル習得を目的とした授業科目等を検討し、カリキュラムに反映させる。カリキュラムについては年度ごとに総合的に検証する。なお、学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
原田 直樹	非特定営利活動法人 Eisvogelスポーツクラブ 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
米原 隆幸	有限会社レジスタ代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
相澤 雅晴	株式会社MIPマネージメント代表取締役社長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年09月06日 13:00～15:00

第2回 令和6年03月08日 09:30～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

人間力向上、指導力向上、ITスキル等、職業人になるために多様な意見があり、教員の指導力強化・企業連携を更に強化し、サッカートレーニング1、2などの授業ではコミュニケーションを多く図る工夫をしていく。また、ビジネススキルやPC活用などの授業、日々のコミュニケーションの中で、社会人として必要なスキル向上を図る。

さらに学生個人の考えを尊重しながら、現状と職業・キャリアについて何度も個人面談を実施する。

サッカーチームのインターンシップや現場実習、ボランティア活動への参加を、更に促し様々な経験値を上げ、大人・社会人へと導く。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係			
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。			
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。横浜マリノススタッフが実施する「指導理論M-T-M方式」に従って、目標（試合での勝利）に向けて、技能・体力向上・戦術理論・チームビルディング、またサッカートレーニング1においてプロのコーチによるコーチング等を学び、サッカーを専門的かつ総合的に学習する。 学年関係なく実力でチーム構成されているA・B・C各チームでは、それぞれのチームでのコーチがトレーニングメニューを分担し選手に指導している。マリノスメソットをベースとしたスキルの向上を目的としたトレーニングメニューを構築している。また、4チームのチーム編成ではあるが、ベースとなる技術、戦術、フィジカル、メンタルなどのメソットは共通理解のもとでトレーニングを構築しスタッフのコミュニケーションを密にし、定期的にA、B、Cの選手を評価し、入れ替えることで競争を促している。			
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
サッカートレーニング1	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	一般社団法人F・マリノススポーツクラブ
サッカートレーニング2	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	一般社団法人F・マリノススポーツクラブ
サッカートレーニング3	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	一般社団法人F・マリノススポーツクラブ
サッカートレーニング4	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	一般社団法人F・マリノススポーツクラブ
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。			
(2) 研修等の実績			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展①	連携企業等:	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング マネジャー島田和茂
期間:	令和5年9月7日 10:00-12:00	対象:	スポーツ教員
内容:	専門力を活かす指導とカリキュラム作成のヒントを得る		
研修名:	カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展②	連携企業等:	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング マネジャー島田和茂
期間:	令和6年3月21日10:00-11:30	対象:	スポーツ教員
内容:	専門力を活かす指導とカリキュラム作成のヒントを得る		

②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	学生指導・保護者サポートのための教育力向上①	連携企業等: 株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里
期間:	令和5年9月4日 15:30-17:30	対象: スポーツ教員
内容	コーチングを軸とした学生指導と保護者サポート力向上	
研修名:	学生指導・保護者サポートのための教育力向上②	連携企業等: 株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里
期間:	令和6年3月5日 15:30-17:00	対象: スポーツ教員
内容	コーチングを軸とした学生指導と保護者サポート力向上	
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	スポーツ・健康サポート×IOT・ICT	連携企業等: (公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	9月を予定	対象: スポーツ教員
内容	遠隔での指導・商品紹介と使い方	
研修名:	スポーツ・健康サポート×IOT・ICT	連携企業等: (公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	3月を予定	対象: スポーツ教員
内容	遠隔での指導と事例	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	救急体制と対応について	連携企業等: 国土館大学防災・救急救 助総合研究所 曾根悦子
期間:	9月を予定	対象: スポーツ教員
内容	①安全な学校生活の環境整備や体制 ②救急事例と対応	
研修名:	救急体制と対応について	連携企業等: 国土館大学防災・救急救 助総合研究所 曾根悦子
期間:	3月を予定	対象: スポーツ教員
内容	①救急事例と対応 ②救急対応と法的問題 ③職業教育を実施する教員として備えるべき救急対応に関しての能力	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について

評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
- ・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してはどうでしょうか。
- ・報告内容にeラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験動奨を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
- ・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
- ・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感謝しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
- ・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となると育ってきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思っています。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思っています。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
- ・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思っています。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
- ・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらゐの実績が書かれていれば良いかと思っています。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思います。
- ・教職員研修は、実施されるかと思いますがこれからもどうか業務として認めていただけても合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形ですまさないようお願いいたします。
- ・保護者会は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
- ・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学が側に取ってとても有難いことかと思われま。また会議の折にもお話いただきましたが対面授業とオンライン授業のハイブリッドにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎということは無いかと思っておりますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところです。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>
公表時期: 令和6年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育人人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>
公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 サッカーコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○	○		
2	○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1・後	30	2	○			○	○		
3	○			PC活用1	マイクロソフト認定Word資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・前	30	2		○		○			○
4			○	PC活用2	マイクロソフト認定Word、Excel資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・後	30	2		○		○			○
5	○			ゲーム分析1	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	1・前	15	1	○			○			○
6	○			サッカーコーチ論1	コーチ、戦術、メンタル、フィジカル、オフザピッチなどサッカーに関わる分野を幅広く学びます。	1・前	15	1	○			○			○
7			○	予防とコンディショニング	テーピングの手法について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1・前	30	1			○	○			○
8	○			ゲーム分析2	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	1・後	15	1	○			○			○
9	○			サッカーコーチ論2	コーチ、戦術、メンタル、フィジカル、オフザピッチなどサッカーに関わる分野を幅広く学びます。	1・後	15	1	○			○			○
10	○			サッカーゲーム1	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	1・前	30	1			○	○	○		○
11	○			サッカートレーニング1	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	1・前	240	8			○	○		○	○
12	○			フィジカルトレーニング1	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化(レベル1)を目的とします。	1・前	30	1			○	○			○
13			○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○		○
14			○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1			○		○		○
15			○	コーチングインターシップA	横浜マリノスサッカー学校、地域サッカー学校などの現場実習を行います。	1・前	60	2			○		○		○
16			○	コーチング実習A	サッカー学校、学内などでコーチングの現場実習を行います。	1・前	30	1			○	○	○	○	○
17			○	スポーツ自由研究A	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・前	30	1			○	○		○	
18			○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1			○		○		○

(芸術専門課程 スポーツ健康学科 三年制 サッカーコース)														
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法 講義 演習	実験・実習・実技	場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択							校内	校外	専任	兼任	
			○ 強化演習1	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。また、練習試合後の振り返りを行います。	1・前	30	2		○		○		○	
			○ 強化合宿1	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	1・前	30	1		○		○		○	
	○		サッカーゲーム2	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	1・後	30	1		○					
	○		サッカートレーニング2	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	1・後	240	8		○	○		○	○	○
	○		フィジカルトレーニング2	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化(レベル2)を目的とします。	1・後	30	1		○	○		○		
			○ D級コーチ	公益財団法人日本サッカー協会公認D級コーチ取得をめざします。	1・後	30	1		○	○			○	
			○ コーチングインターンシップB	横浜マリノスサッカースクール、地域サッカースクールなどの現場実習を行います。	1・後	60	2		○		○		○	
			○ コーチング実習B	サッカースクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	1・後	30	1		○	○	○	○	○	
			○ スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1		○		○		○	
			○ スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1		○		○		○	
			○ スポーツ自由研究B	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・後	30	1		○	○		○		
			○ 強化演習2	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。また、練習試合後の振り返りを行います。	1・後	30	2		○		○		○	
			○ 強化合宿2	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	1・後	30	1		○		○		○	
			○ 短期海外研修A	ドイツ、オランダ、スペインなどの海外サッカーについての理解を深めます。	1・後	60	2		○		○		○	
			○ 4級審判	サッカー4級審判取得のための講習会に参加します。	1・通	30	1		○		○		○	
			○ スポーツトレーニング実習A	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	60	2		○	○		○		
			○ スポーツトレーニング実習B	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	120	4		○	○		○		
			○ 社会体育実習A	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	1・通	60	2		○		○		○	
			○ 日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1		○	○			○	
			○ キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	0		○	○			○	
			○ キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	30	1		○	○			○	
			○ キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	45	1		○	○			○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科 三年制 サッカーコース)																
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 修	自 由 選 修						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
		○	キャリアアップセミナーD	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	60	2			○	○			○		
	○		ビジネススキル3	社会人になるために必要なコミュニケーションスキルを身につけます。	2・前	30	2	○			○			○		
	○		ビジネススキル4	社会人になるために必要なコミュニケーションスキルを身につけます。	2・後	30	2	○			○			○		
	○		ゲーム分析3	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	2・前	15	1	○			○				○	
	○		サッカーコーチ論3	コーチ、戦術、メンタル、フィジカル、オフザピッチなどサッカーに関わる分野を幅広く学びます。	2・前	15	1	○			○			○		
	○		ゲーム分析4	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	2・後	15	1	○			○				○	
	○		サッカーコーチ論4	コーチ、戦術、メンタル、フィジカル、オフザピッチなどサッカーに関わる分野を幅広く学びます。	2・後	15	1	○			○			○		
	○		サッカーゲーム3	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	2・前	30	1				○	○	○		○	
	○		サッカートレーニング3	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	2・前	240	8				○	○			○	○
	○		フィジカルトレーニング3	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化(レベル3)を目的とします。	2・前	30	1				○	○				○
		○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	2・前	30	1				○		○			○
		○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1				○		○			○
		○	コーチングインターンシップC	横浜マリノスサッカースクール、地域サッカースクールなどの現場実習を行います。	2・前	60	2				○		○			○
		○	コーチング実習C	サッカースクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	2・前	30	1				○	○	○	○		○
		○	スポーツ自由研究C	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・前	30	1				○	○			○	
		○	チームビルディング演習	チームワークの大切さを学び、結束を固めてゴールへと進むための組織作りについて学びます。	2・前	30	2				○		○			○
		○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1				○		○			○
		○	強化演習3	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。また、練習試合後の振り返りを行います。	2・前	30	2				○		○			○
		○	強化合宿3	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	2・前	30	1				○		○			○
	○		サッカーゲーム4	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	2・後	30	1				○	○	○		○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科 三年制 サッカーコース)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法 講義 演習	授業方法 実験・実習・実技	場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択								校内	校外	専任	兼任	
61	○			サッカートレーニング4	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	2・後	240	8		○	○		○	○	○
62	○			フィジカルトレーニング4	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化(レベル4)を目的とします。	2・後	30	1		○	○			○	
63			○	C級コーチ	公益財団法人日本サッカー協会公認C級コーチ取得をめざします。	2・後	30	1		○	○			○	
64			○	コーチングインターンシップD	横浜マリノスサッカー学校、地域サッカー学校などの現場実習を行います。	2・後	60	2		○		○		○	
65			○	コーチング実習D	サッカー学校、学内などでコーチングの現場実習を行います。	2・後	30	1		○	○	○	○	○	
66			○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1		○		○		○	
67			○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1		○		○		○	
68			○	スポーツ自由研究D	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・後	30	1		○	○		○		
69			○	強化演習4	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。また、練習試合後の振り返りを行います。	2・後	30	2	○			○		○	
70			○	強化合宿4	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	2・後	30	1		○		○		○	
71			○	短期海外研修B	ドイツ、オランダ、スペインなどの海外サッカーについての理解を深めます。	2・後	60	2		○					
72			○	3級審判	サッカー3級審判取得のための講習会に参加します。	2・通	30	1		○		○		○	
73			○	インターンシップ1	横浜マリノスサッカー学校、地域サッカー学校などでインターンシップを経験します。	2・通	45	1		○		○		○	
74			○	スポーツトレーニング実習C	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	60	2		○	○		○		
75			○	スポーツトレーニング実習D	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	120	4		○	○		○		
76			○	社会体育実習B	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	2・通	60	2		○		○		○	
77			○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1		○	○			○	
78			○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	15	0		○	○			○	
79			○	キャリアアップセミナーF	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	30	1		○	○			○	
80			○	キャリアアップセミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	45	1		○	○			○	
81			○	キャリアアップセミナーH	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	60	2		○	○			○	
82	○			ビジネススキル5	社会人になるために必要なビジネススキルを身につけます。	3・前	30	2	○		○		○		
83	○			ビジネススキル6	社会人になるために必要なビジネススキルを身につけます。	3・後	30	2	○		○		○		

(芸術専門課程 スポーツ健康学科 三年制 サッカーコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
84	○			ゲーム分析5	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	3・前	15	1	○			○			○	
85	○			スクールマネジメント論1	組織運営ならびに仮想組織を形成し、各セクションの役割を学びます。	3・前	30	2	○			○			○	
86	○			ゲーム分析6	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	3・後	15	1	○			○			○	
87	○			スクールマネジメント論2	組織運営ならびに仮想組織を形成し、各セクションの役割を学びます。	3・後	30	2	○			○			○	
88	○			スポーツ栄養論1	スポーツ栄養の基本的な考え方を理解します。	3・前	30	2	○			○			○	
89	○			スポーツ栄養論2	スポーツ栄養の基本的な考え方を理解します。	3・後	30	2	○			○			○	
90	○			サッカーゲーム5	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	3・前	30	1				○	○	○	○	
91	○			サッカートレーニング5	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	3・前	240	8				○	○		○	
92	○			フィジカルトレーニング5	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化(レベル5)を目的とします。	3・前	30	1				○	○		○	
93			○	コーチング実習E	サッカースクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	3・前	30	1				○	○	○	○	
94			○	強化演習5	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。また、練習試合後の振り返りを行います。	3・前	30	2		○			○		○	
95			○	強化合宿5	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	3・前	30	1				○	○		○	
96	○			サッカーゲーム6	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	3・後	30	1				○	○	○	○	
97	○			サッカートレーニング6	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	3・後	240	8				○	○		○	
98	○			フィジカルトレーニング6	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化(レベル6)を目的とします。	3・後	30	1				○	○		○	
99			○	コーチング実習F	サッカースクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	3・後	30	1				○	○	○	○	
100			○	強化演習6	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。また、練習試合後の振り返りを行います。	3・後	30	2		○			○		○	
101			○	強化合宿6	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	3・後	30	1				○	○		○	
102			○	短期海外研修C	ドイツ、オランダ、スペインなどの海外サッカーについての理解を深めます。	3・後	60	2				○	○		○	
103			○	COOP実習	就職先などの企業における就業体験プログラムです。	3・通	90	3				○	○		○	
104			○	インターンシップ2	横浜マリノスサッカースクール、地域サッカースクールなどでインターンシップを経験します。	3・通	45	1				○	○		○	
105			○	社会体育実習C	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	3・通	60	2				○	○		○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 サッカーコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
106	○			成果発表	在学中に学んだ事を基に成果発表のための企画・準備・運営を実施します。	3・通	60	4	○			○		○		
合計							106	科目	5010時間			単位(単位時間)		190単位		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要 卒業時に必修科目2340時間(96単位)および選択科目130時間(3単位)以上取得し、 件: 合計2470時間(99単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方 1年次は必修750時間、選択科目50時間以上履修すること 法: 2年次は必修720時間、選択科目80時間以上履修すること 3年次は必修870時間、選択科目0時間以上履修すること	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。